

2018年JAF北海道ジムカーナ選手権第3戦／2018年JMRC北海道ジムカーナシリーズ第3戦／
2018年JMRCオールスター選抜第3戦 AG.MSC北海道ハイスピードチャレンジジムカーナ [JAF公認No.2018-8204]

開催日：6月3日 開催場所：オートスポーツランドスナガワ ジムカーナコース 格式：準国内 主催：AG.MSC北海道 [クラブ登録No.公認01001]

フォト／加藤和由 レポート／JAFスポーツ編集部

去年の忘れ物を取りに来たPN-1米澤匠が進撃！



2016年、2017年北海道PN-1チャンピオンの米澤匠選手が第1ヒートのブツギリタイムで逃げ切り、昨年の同大会の雪辱を果たした。

全

日本ジムカーナの開催を2週間後に控えた6月3日、北海道砂川市にあるオートスポーツランドスナガワ・ジムカーナコースで、JAF北海道ジムカーナ選手権第3戦が開催された。

この大会はJMRC北海道ジムカーナシリーズが併催され、JAF選手権のPN-1、SH-1クラスのほか、JMRCミドル部門の86/BRZ、R-1、R-2、R-ecoクラス。そしてクローズド部門の

RB-K、OPENクラスも走行した。

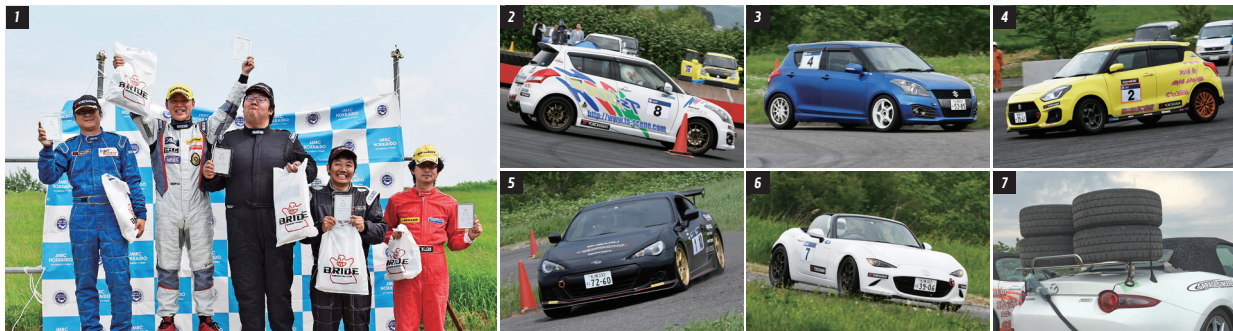
注目はNDロードスターを駆り、全日本ジムカーナ第4戦名阪で6位入賞を果たした米澤匠選手。2016年には全日本スナガワ大会で2位を獲得している気鋭の道産子ドライバーだ。

米澤選手は昨年の北海道シリーズで6戦中5戦を挙げて有効満点チャンピオンを獲得しているが、第3戦スナガワだけは勝利を落としている苦い過去がある。それだけに、全日本スナガ

ワへの試金石でもある今大会は、いつもと違うプレッシャーを感じていた。

朝の米澤選手は「去年はパイロンを触って、ここだけ勝利を逃したので、今年こそ勝って、シリーズ全勝したいです。パイロンタッチやミスコースといった自爆的なことをしないで(笑)、全力を出し切りたいですね」と気合を入れた。

レイアウトは、サーキット区間の外周をふんだんに使ったハイスピードに、やや傾斜のある



1. PN-1表彰台。北海道のPN-1は「排気量を制限しない2輪駆動のPN車両とAE車両」が対象。そのためZC33Sスイフトや86/BRZのPN車両がNDロードスターやZC32Sスイフトと混走している。優勝の米澤匠選手は表彰台でスッキリとした笑顔を見せた。2. ZC32Sスイフトを駆る2012～2013年PN-1チャンプの宮本雅樹選手が2位。「外周のライン取りにまだまだ詰め甘いところがあると先輩にダメ出しされました……」と反省の弁。3. 2014年PN-1チャンプの宮田祐次選手がZC32Sスイフトで3位。4. 新型のZC33Sを駆る関健一朗選手が4位。5. BRZの帷子浩義選手が5位。6. 7. NDロードスターを駆る関根大雄選手が6位。他車用パーツの流用で、NDユーザー垂涎の堅牢なタイヤキャリアを自作した職人だ。

広場区間を使ったテクニカルを組み合わせたものの。サーキット区間は攻めすぎるとタイムロスも大きく、攻守のバランスが難しい。

PN-1の第1ヒートは米澤選手が快走。後続を2秒以上離す1分23秒173で暫定トップに立った。2番手はBRZの帷子浩義選手、3番手はZC32Sスイフトの宮本雅樹選手が付けた。

この日のスナガワは終日強風に見舞われ、天

気予報とは裏腹に肌寒かった。そのため第2ヒートの逆転は難しい状況だったが、ペナルティなどに沈んだ選手も多かったこともあり、各クラスでベストタイムの更新が相次いだ。

PN-1は1分25秒後半の戦い。暫定2番手の宮本選手は自己タイムをコンマ5秒上げたが1分25秒520に留まった。続く米澤選手はウィニングラン状態となり、1分21秒717のタ

イムを出したものの、何とパイロンタッチ。ダブルエントリーで最終走者となった小野寺俊選手

のゴール後に米澤選手の優勝が確定した。「いやー避けきれなかったですね(笑)。全日本スナガワに向けてビシッと勝ちたかったんですが、しまりのない感じになりました」。これで開幕3連勝となった米澤選手。昨年の忘れ物をしっかり回収してタイトル連覇に独走する。



8.SH-1のディフェンディングチャンピオン阿戸幸成選手が開幕3連勝。第1ヒートは「イマイチ調子が上がらない」と難しい表情だったが、第2ヒートで計測した1分21秒504の大会オーバーオールタイムの獲得で笑顔を見せた。9.SH-1表彰台。2位の金内佑也選手や3位の福浦亮選手ら、僅差のバトルを演じた20歳代前半の若手ドライバーに挟まれた優勝の阿戸選手。10.地区戦SH-1で初の2位を獲得した金内選手だが「パイロンタッチした1本目の方がタイムは良かったので、正直2本目の走りには納得いってません」と自分に厳しいコメント。11.1本目に比べると攻められたんですが、見直すところも沢山あるのでまだまだです」とはSH-1で3位の福浦選手。12.コンマ06秒差でSH-1の4位となったのは成瀬悠人選手。



13.R-eco 優勝は「今年初のスナガワだったので、路面の感覚を忘れていました(笑)。1本目で感触を掴めたので、2本目は何とかタイムを上げられました」と語る吉原友貴選手。14.R-ecoの2位はマーチ12SRを駆る西山直登選手。15.R-ecoの3位は笹田真司選手。16.86/BRZ優勝はナツキ選手。「ガレージシンシアのデモカーに急遽乗ることになって、ジムカーナを始めてまだ2カ月なんです。サイドターンも習ってない状況なのでまだまだ要修行です!」と笑顔。17.R-ecoの4位は北海道科学大学自動車部の大川龍之介部長。



18.「コースに自信がなくて1本目は恐る恐る走りましたが、2本目はミスコースしそうになりました」と笑う松井元選手がRB-K優勝。昨年10月にジムカーナを初体験して、今回はハイグリップタイヤを新調しての参戦だ。



22.R-2優勝は「もう少しタイムを出したかったんですがダメでした。今年は、昨年までのZIIからRE71Rに履き替えたんですが、まだ性能を持て余してる感じです。クルマの調子が良いので、ラジアルとはいえ4駆ですから、Sタイヤ装着クラスのタイムは抜かないといけませんよね。ドライビング面ではブレーキが課題です」と反省する。23.R-2の2位はGDBインプレッサの逸見将吾選手。24.R-2の3位はGDBインプレッサの塚本雄久選手。

OPEN優勝はコルトVRの伊藤健太選手。



OPEN2位はRX-8を駆る高瀬務選手。